

# 進路支援通信

<NO.6>



湘南支援学校  
支援連携グループ  
進路支援班  
令和6年3月6日

SHONAN SHINROSHIEN NEWS LETTER

雪景色の日もありましたが、少しずつ春の足音が近づいてきていますね。また、3月にかけては、1年間の成長を感じる時期でもあり、更に次の段階に進むための準備をし始める時期でもあると思います。

さて、今回の進路支援通信では、障害基礎年金についての学習会(毎年高等部3年生の保護者対象で実施しています)と、高等部1年生のグループ職場体験について、ご紹介します。

## 20歳になる3か月前から始動！障害基礎年金

連絡帳などをとっておきましょう！

障害基礎年金とは、障害によって生活や仕事などが制限されるような場合に支給される公的年金のひとつです。申請をして、さまざまな要件が認められた場合、20歳から受給できます。ただし、その申請がとても複雑で、準備には時間も手順もたくさん必要です。毎年高等部3年生の保護者対象に学習会を行っており、先日も開催されました。その中で、小さいときからの記録を書く書類があるとお話もあったので、小学部や中学部の保護者の方にもお知らせしたいと思いました。今回の学習会の内容からポイントだけ、お伝えします。

### 必要な手続き:20歳の誕生日の3か月前！

20歳の誕生日の3か月前を目安に、平塚年金事務所または役所の年金課に電話をして、相談の予約をします。窓口に行くときは、療育手帳を持って行き、申請に必要な書類キットを受け取ります。

※年金事務所は管轄地域が広く、予約数が多く、予約日が1~2か月先になる場合もあるとのこと、まずはお住いの市町役場にお問合せすることをおすすめしますとのことでした。

### 今からできること

- ・診断書を書いてくれる医師(知的障害の状況を証明できるのは精神科)に定期的に受診をしておくこと  
→1回だけの受診では、診断書を書いてくれないドクターが多いことがあり、定期的な受診が必要です。
- ・本人名義の通帳作成
- ・幼少期からの記録(連絡帳)などを集めておく
- …申請書類の中に、出生後から申請時まで、3年ごとくらいの記録を書く「病歴・就労状況申立書」という書式があります。特にご家庭や通園、学校などで困ったことや苦戦したことなどについて、詳しく書けると、年金が必要だということがより伝わるとのことでした。

療育手帳がある＝年金支給、でもなく、手帳の等級＝年金の等級でもないとのことなので、申請書類がとても重要になります。また、実際に手続きを経験した方のお話によると、書類の提出や窓口の行き来が何度かはあるそうです(最低でも2回)。手続きそのものは20歳の誕生日の3か月前にならないとできませんが(医師の意見書も申請の3か月以内の、指定された書類でないと無効)、通院状況や日々の記録など、とっておけるものはとっておき、できる準備をしておきましょう。

※5月24日(金)12時30分~13時45分「障害年金申請について 当事者家族の声」平塚市手をつなぐ育成会によるお話があります。これは、湘南ひらつか福所事業所合同説明会の学習会のひとつとして開催するものです。申請の手続きをもとに申請・受給にまつわる体験談をお話していただく機会となっております。

詳細は、4月にご案内させていただきます。

裏面あり

## 高等部 1 年生のグループ職場体験レポート

高等部 1 年生の後期(今年は1月～2月)になると、はじめての現場体験「グループ職場体験」というものがあります。

「グループ職場体験」とは、教員が付き添いをし、実際に職場(企業・事業所)の仕事を通じて「どんな仕事や職場があるのか」、「はたらくとはどういうことか」、といったことを経験する機会です。その経験をもとに、自分に合う仕事だったかななどを振り返りながら、2年生以降の現場実習につなげていく機会となります。

体験では、作業などにいつもと変わらずの取り組める生徒や、緊張や不安を抱えている様子の生徒もみられましたが、それぞれ良い経験を積んで学校に戻ってきてくれました。多くの体験先から「あいさつ」、「報告・連絡・相談」などのコミュニケーションの力をもっとつけると良いとアドバイスを頂きました。「いつでも」、「どこでも」、「だれとでも」できるように日頃からチャレンジしておくことと実習に行った際に自然にできるようになると思います。

体験した生徒や付き添いの教員からの感想を一部紹介します。

### 体験の感想から

スーパーで実習をしました。職場の方が優しく仕事が楽しくできました。思っていたよりも仕事は覚えることができました。仕事をしていく中で、午前中は大丈夫だったけど、昼休憩後から疲れがきて、大変でした。体力をつけることが必要だと思いました。(生徒より)

地域活動支援センターの体験に付き添いをして、本人のペースに合わせた環境で作業ができる所が良かったです。あいさつや返事はどこでもできるようになるとスムーズになじめると感じました。(教員より)

就労継続支援 B 型事業所で実習をしました。最初は、緊張して不安でしたが、職員さんが優しく教えてくれて、二日目は、緊張せずできました。ボールペンの組み立て作業をしました。最初は、難しかったですが、慣れたら、一番楽しかったです。(生徒より)

清掃の実習をしました。体験をしてモップの使い方が今までと違い難しかったです。また、朝早くからの仕事で普段の学校より疲労を感じました。次の日に予定時間に起きることができませんでした。体力が必要だと感じました。(生徒より)

生活介護事業所の体験に付き添いをして、利用者さんのペースを大事に動いているように感じました。体験の中で余暇の過ごし方やいろいろな場所でトイレを利用できるようになっておけると良いと感じました。(教員より)

## 企業が学校見学に来校されることがあります

国は、障害者雇用を増やそうという取り組みを進めています。多くの企業がどのような仕事、どのような環境だったらより多くの雇用につながるかを考えています。その参考のためにと、特別支援学校の見学依頼をお受けすることがあります。1月にはハローワーク主催での見学会を開催して2社来校し、2月にも1社来校がありました。その際は高等部の作業学習を見学していただいています。作業学習は、他の曜日と違って1日通して作業班メンバーで活動し、あいさつ・返事や作業に応じた身支度、報告・連絡・相談、最後までやり抜く力など、仕事に必要な力をつける学習です。また、作業している場面を見ていただくだけでなく、作業内容や苦戦しているところを生徒自身が説明することで、生徒と直接コミュニケーションとっていただくこともあります。生徒たちも、回を重ねるごとに説明が上手になったり、あいさつや笑顔などが自然に出てお客様に慣れてきたりと、変わっていく様子が見られるようになりました。生徒たちのことを知ってもらう機会は貴重です。そして生徒たちにとっても、いろいろな大人とふれあうことは、さまざまな成長につながるのだと実感しています。生徒たちの得意なところと苦手なところ、苦手な環境、そこにあるとよい配慮など、学校の中での実践を伝えて、少しでも多くの雇用のチャンスにつながればと考えています。